

四 万葉の敏馬の浦

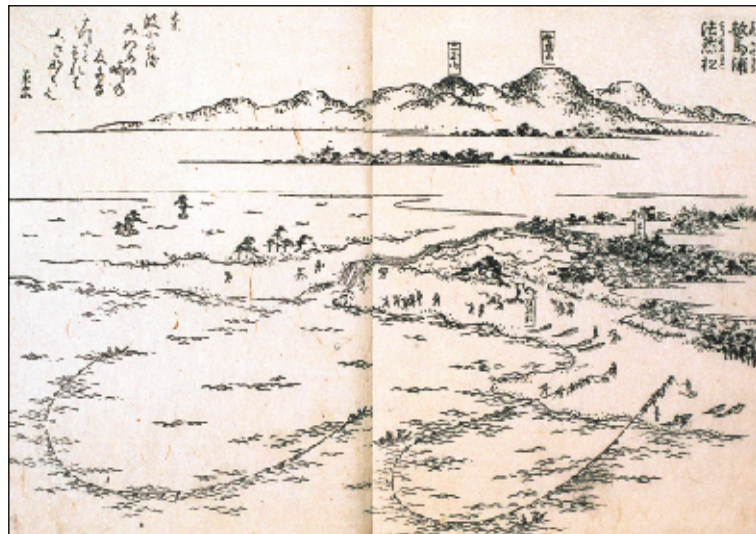
神戸港発祥の地といえは兵庫と思われませんが、敏馬の浦は万葉集にもうたわれ、神戸で最初の港だったといわれています。

この敏馬の浦では、新羅国から日本の朝廷に使節として来朝した人々に、生田神社で醸造した酒を馳走することが長い間のならわしだったそうです。日本書紀や万葉集の和歌からは、千年昔の敏馬の浦は白砂青松で、鶴なども時に舞おりてきたこと、往来の船が素通りできないほど風光明媚な良港であったことがしのべます。現在は国道に阻まれて海が遠くなっていますが、新しく

できた街「東部新都心(HAT神戸)」へまわって水際を感じてみるのも良いものです。

また、ここから三宮駅前までは地域の人々によって西国街道にちなんだ案内板や道標が所どころに設置されています。

西国街道の案内板と道標(葺合たぬき広場内)



「摂津名所図会」敏馬の浦と法然松

主な見どころ

敏馬神社
みまのじんじや
ほ四

旧宮屋・味泥・大石村の氏神である。社殿はかつて、敏馬の崎と呼ばれた高台にあり、東側に敏馬の浦が広がっていた。境内には柿本人麿などの歌碑があり、万葉ゆかりの神社としても有名である。10月葉月の日に近い土・日曜日(例)大祭(神輿)がある。

筒井八幡神社
つづい はちまんじんじや
ほ三

祭神は応神天皇で筒井村の氏神。境内にはつづいの井と「井戸」が古くから湧いておりそれが村名のもととなった。5月14・15日に例大祭(春祭)・10月第2土・日曜日(例)秋祭がある。

割塚古墳の跡
わりづか くれづか
ほ三

古墳時代後期のもので横穴式石室の大田墳であった。豊臣秀吉による大坂城築城のためにこの石室から巨石が大部分運び出され、わずかにつづいの大石と蓋石を残すのみとなり、これが割塚の名の由来になったといわれている。

南宮宇佐八幡神社
みなみやうさ はちまんじんじや
ほ四

旧瀬浜村の氏神で祭神は応神天皇。もともと瀬浜村には東に堂ノ川八幡、その西に南宮八幡の二つの八幡神社があったが昭和7年に堂ノ川を南宮に合流(こうし)した現在、堂ノ川のあった場所には碑が建てられている。10月第3日曜日(例)祭がある。

阿弥陀寺と法然松の碑
あみだじ ほうねんまつ
ほ四

本尊は阿弥陀如来。勢至・普賢・観音菩薩の三身一體の仏像。かつて寺の西200mの浜に法然上人が講義配流の途中に立ち寄った時、瀬浜の庄屋であった重松右衛門の懇願で上人が植えた松のなごりの碑が境内にある。

脇浜乙女塚の碑
わきはまのめづか
ほ四

前方部を東に向ける前方後円墳であったらしく、昭和初期までは封土を残していた。その位置から約100m北の臨港線と国道が交差する東南部分にこの碑が建っている。乙女塚の名前が東灘の乙女塚古墳にならえたものが、乙女塚伝説が後の物語などで生田川に移ってから出てきたものかは不明である。

中村八幡神社
なかにむら はちまんじんじや
ほ三

旧中村の氏神で、祭神は応神天皇。言い伝えによれば昔、筒井村と瀬浜村の住人が対立していた時、生田の里から両村の中間に移り住んだ長老が石清水八幡宮より勧誘し、中の八幡宮と呼んだのが始まりと伝えられている。4月第3日曜日(例)春祭、10月第3日曜日(例)秋祭がある。

西国街道の案内板
さいごくかいだうの
あんいばん
ほ三

地域のまちづくり活動により、西国街道にちなんだ案内板や道標が数箇所、設置されている。

北向地蔵
きたむかしじぞう
ほ三

大雨で生田川の堤が切れそうになった時、夜のうちに大石を投げて堤を直してくれたお地蔵さんをまつて、川の西に堤の方を向けてお堂を建てたことがはじまりといわれている。道角には旧生田川を境に免原(うはら)郡と八郡(やちべ)郡が分かれていた名残の碑が立つている。

王子動物園
おうじどうぶつえん
ほ二

8万m²の敷地に「アラビヒョウ」をはじめパンダなどが飼育されている。国指定重要文化財「旧ハンター邸」が移築されている。9時~17時、600円、水曜定休(祝日営業)。(078)861-5624

